

令和6年度の終わりの日です。この1年間に皆さんに話したことを振り返ります。1学期、北条高校を接ぎ木の台木にたとえて、年輪を経た北条高校という台木の良い性質を、北条清新高校という未来の穂木へとつなぐ役割の大切さを話しました。また、意味のある失敗や意志のある失敗をたくさん経験するリスタートの大切さを、そして、カー杯やってみる経験からしか自分の限界を知ることはできないという話をしました。2学期は、パリオリンピックを機に、勝つための努力の尊さと負ける経験からの学びの大切さ、そして、私の教え子のエピソードから自分の心と身体を使って、どう自分らしく生きるかを考えてほしいという話をしました。3学期は、人と共に生きる世の中で、「共感」と「敬意」という土台の上に信頼ある人間関係を築いてほしいという、私の願いを話しました。

これらの話は、すべて「『人』を想い、自分を磨く」ことに通じています。この言葉について、君たちへの希望を話します。

まず、「自分を磨く」は、勉強でも、部活動でも、自分が求める道で自分を高めようとし、新しい自分になるために頑張ることです。これには、できるだけ早く取り組んでほしいと思います。なぜなら、10代はあっという間に過ぎ去るからです。10代のうちに自分を磨く経験をたくさんするべきです。皆さん一人一人に、自分の磨き方や、磨く時や、磨く場が、それぞれあると思います。卒業までに、自分を磨く時と場を見つけてほしいと思います。

そして、「『人』を想う」には、三つの想いの方向があると思っています。一つ目は、自分に向けた想いの方向です。今の自分に向けた想いかもしれないし、将来の自分に向けた想いかもしれません。二つ目は、縁のある人や顔の見える人に向けた想いの方向です。この人のために、あの人のために、例えば家族のために、お世話になった人のために、憧れる人のために、と自分で自分を高めようとする想像力です。三つめは、「誰か」のために自分を磨く想像力です。まだ出会っていない誰かのために、あるいは、遠くにいる誰かのために、今の自分を磨くことができる想像力です。世のため人のため、と言い換えることもできるでしょう。

君たちには、2年次になっても3年次になっても、人を思い自分を磨いてほしいと思います。君たちには、君たちが思っているよりも、確かな力、強い力、大きな力があると、私はいつも思っています。もちろん今のままでも悪くはないけれど、できれば思い切っているいろいろな経験に飛び込んで、初めてのことにチャレンジして、少しずつ少しずつ自信を増やして行ってください。

最後に、この学校で出会い、この学校で学び、この学校から世界へ飛び立つ君たちを、心から応援します。どうか北条高校で「『人』を思い自分を磨く」姿勢を持ち続けてください。以上で、式辞を終わります。

令和7年3月19日

愛媛県立北条高等学校 校長 渡邊俊